



平安時代中期、仏師の祖と仰ぐ定朝によって寄木造(よせぎづくり)が完成され、和様とよばれる日本独自の様式美が生まれた。その伝統を今も受け継ぐ。

古代の仏像にはそれぞれ造られた時代の特徴が現れています。仏教美術に明るい人は制作された時代を言い、当てます。それはそれぞれの時代に生きた人々が悩みや苦しみから救われたい、助かりたい、と抱いた願いや美意識、そして生活が仏像に反映されているからなのです。

平安時代中期、仏師の祖と仰ぐ定朝によって寄木造(よせぎづくり)が完成され、和様とよばれる日本独自の様式美が生まれた。その伝統を今も受け継ぐ。

私は仏像制作の道に携わっています。仏師の修行はまず刀物を研ぐこと、木を削ることから教わります。仏像の手や足、そして頭部へと、部分が彫れるようになるとようやく全身像に挑みます。同時に技術の修練だけでなく仏教各宗派の教義や仏教美術の歴史も学ばなくてはなりません。

古典の仏像にはそれぞれ造られた時代の特徴が現れています。仏教美術に明るい人は制作された時代を言い、当てます。それはそれぞれの時代に生きた人々が悩みや苦しみから救われたい、助かりたい、と抱いた願いや美意識、そして生活が仏像に反映されているからなのです。



戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れてある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

●えりこ^{うけ}
1943年、仏師 江里平宗の長男として京都に生まれる。京都市立日本画・工芸美術課程彫刻科卒業後、松久朋昇・宗兼師に入門。89年、三千院から大仏師号を賜る。2003年、京都府文化功労賞、07年に勲三等。京都府文化功労賞受賞者。著書に「仏像に聞く」や、「仏師」という生き方、「京都の仏師が語る、眼福の仏像」など。

●きょうの心伝で^{募集}
あなたが思う「日本人の忘れもの」はですか? 春季の中でも忘れてはならないと思う日本人の心の譲りや伝えたい京都に残る心遣いなどをお寄せ下さい。京都新聞で選考・添削する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内)、郵便番号、住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8557京都新聞COM「きょうの心伝で」係まで。

Fax: 075-222-2220
E-mail: wasurenmono@mbkyoto-np.co.jp
URL: http://kyotonp.jp/kp/Kyo_np/info/nw_c
お問い合わせ

昔の大家族の家庭では、親の苦労を見て育った上の子が下の子の面倒を見、子供たちで役割を分担し手伝いをしたり、おかげでやつは分け合って、助け合って暮らすことが当たり前でした。インドを旅するたびに、今でもあちこちでこうした光景を見かけては、遠い日のことが懐かしく甦ります。

水道の蛇口をひねると飲める水が出てくる。夜の通りを女性が一人でも歩ける。先進国といわれる(ある程度)豊かな国。ここまで世界中を探せば何本かの指を折ることが出来ます。しかし、それでいて徴兵制のない国となるとどうでしょう。「知足」のところ

「ののさまは見てはる 子供の人格の 縦軸となつてきた 仏教の教え。」

江里 康慧
仏師



仏教は2500年前のインドに実在されたお釈迦様が、その生涯にわたり多くの人々に説いて歩かれ、導かれた法(ダルマ)であると思います。それは人間が普遍的に、潜在的に背負う悩みや苦しみから解放される悟りの境地、即ち真理に目覚めさせる教えです。

本来は象(かたち)をもたなかつた仏教ですが、その後、仏像や仏画等の美術やさまざまな工芸、そして建築や庭園、音楽、芸能に至る多彩な文化を生み出してきました。それは凡夫の肉眼には覗くことが出来ない仏教の世界をかたちを通してメッセージされていました。

私は象(かたち)をもたなかつた仏教ですが、その後、仏像や仏画等の美術やさまざまな工芸、そして建築や

庭園、音楽、芸能に至る多彩な文化を生み出してきました。それは凡夫の肉眼には覗くことが出来ない仏教の世

界をかたちを通してメッセージされていました。ここから自然に對する感謝と畏敬

する心と畏怖することを学び、社会における連帯感、絆が身に備わり、世の中の秩序が形成されたように思いました。

日本の精神文化を支えてきた上で仏教は大きな位置を占めてきました。身近なところでは子供や孫たちは、お仏壇の前のおじいちゃんやおばあちゃんの膝の上で、「誰も見ていないと思っても、ののさまはいつも見てはるのえー」と聞かされてきた日常が、その子の人格の縦軸となつてきたように思います。

日本人の精神文化を支えてきた上で仏教は大きな位置を占めてきました。身

近なところでは子供や孫たちは、お仏壇の前のおじいちゃんやおばあちゃんの膝の上で、「誰も見ていないと思っても、ののさまはいつも見てはるのえー」と聞かされてきた日常が、その子の人格の縦軸となつてきたように思います。

日本人の精神文化を支えてきた上で仏教は大きな位置を占めてきました。身

近なところでは子供や孫たちは、お仏壇の前のおじいちゃんやおばあちゃんの膝の上で、「誰も見ていないと思っても、ののさまはいつも見てはるのえー」と聞かされてきた日常が、その子の人格の縦軸となつてきたように思います。